

木に対する意識を

多くの方と共有したい

株式会社井上材木店
社長 井上 新二さん



「来場した女性客から、かわいいうー！との声を聞いたとき、受け入れられたのだから！と思えましたよ。」感慨深げに語るのは、井上新二社長である。

井上材木店のキャラクターマーク（節）を使った「木製弁当箱」や小物類に対する反響は大きかった。触れて楽しむ人も多かったという。質問攻めにされることもあった。この取材の当日にも、大川木

材団地内の本社に問い合わせの電話が入った。

「キャラクターマーク（節）の入った材は、従来は欠点材として敬遠されてきました。捨ててしまっていました。ところが今では、資材やバイヤー、そして若い顧客からの支持を得る様になってきています。」と井上さんは言う。

「アメリカ広葉樹エコ・デザイン・ファニチャー・プロジェクト展」が開かれた東京・西新宿のリビングデザインセンターOZONEは、ロケーションもよく、沢山の人が訪れた。「今回の二人のデザインナー、小泉 誠氏、関 洋氏の知名度もあり、期待感を持ってきてくださった方もいらつしやうと思えますね」と分析する。

デザインナー小泉 誠さんとのコラボ。「デザインナーは”形”を提供してくれませんが、木取りの感性、色の深さ、配合、個性などは私たちが担当しました。」井上材木店はこれまで、端材やローグレードの木材を捨てずに使って小物家具や木製アクセサリーなど

を製造・販売してきた実績があるのだ。このたびもNCLルーターを活用し、小泉 誠氏が「生活を楽しむ」というコンセプトのデザインをよどみなく表現できた。

プロジェクト展に参加した大川からの企業は、井上さんの紹介によるもの。「こうした参加で、大川に”何か”がきてくれればという思いもあります。また私自身、木の良さ、さらには問題点まで含めた、木に対する意識を多くの方と共有したいという思いがありました。」

量産の時代が終わり、個性的な家具造りが求められるようになった昨今、井上さんは、エコに貢献するアメリカ広葉樹も、価値ある材の一つとして注目されていくことを望んでいる。

